

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

評価と引き継ぎのポイント

年度末を迎え、校内支援体制の評価や子どもの情報を引き継ぐ時期になりました。今号では、評価と引き継ぎのポイントを紹介します。

〈評価のポイント〉 指導の評価・改善が、子ども・保護者・学校の変容につながる！

- 1 子どもの行動が変容したか
 - ・変容が分かるように、行動を数値化したり、具体的な言葉で表現したりする。
- 2 保護者の意識が変容したか
 - ・保護者と合意形成を図りながらPDCAサイクルで子どもを支援する。
- 3 学校の支援体制や教員の意識が変容したか
 - ・年間計画に基づき、コーディネーターが中心となり、校内支援体制をチェックする。
- 4 なぜ変容したか
 - ・目標と子どもの実態のずれ、目標と支援内容・方法のずれを具体的に評価する。
- 5 有効だった手立てを引き継ぐ
 - ・次年度の課題を検討し、新たな目標設定と支援内容、関係機関や担当者を確認する。



〈引き継ぎのポイント〉 思い・目的・有効な手立て・ノウハウ（成果）を共有する！

- 1 引き継ぎのツール
 - ・指導・保育要録、就学支援シート、個別の支援計画及び個別の指導計画、検査結果等
- 2 幼稚園・保育所（園）から小学校への引き継ぎ
 - ・園は保護者の同意を得たり、就学支援シートを活用したりして、小学校と情報交換を行う。新年度になってから旧担任が小学校を訪問して、授業参観をしたり、保幼小連絡会を行ったりして、引き継ぎ内容にずれがないか確認する。
 - ・小学校は就学時健診や体験入学等の記録を確認する。保護者から相談があった場合、入学までの準備・入学後の学校生活について面談を実施する。
- 3 小学校から中学校への引き継ぎ
 - ・小学校は「個別の支援計画」や「個別の指導計画」の評価を行い、保護者の同意を得て進学先へ引き継ぐ。中学校での指導の参考になるように、「活動に見通しがもてれば集中して取り組める」等、具体的な支援と子どものできることを伝える。
 - ・中学校は引き継いだ情報を校内で共通理解を図り、有効な支援を重ねながら、子どものできることを増やす。
- 4 中学校から高等学校への引き継ぎ
 - ・中学校は合格後に情報提供を行う。保護者の同意を得て、「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を引き継ぐ。できればコーディネーターや担任が直接伝える。
 - ・高等学校は地域生徒指導研究協議会や養護教諭連絡協議会を活用し、中学校から情報を入手する。申し送りがなく発達の気になる生徒がいる場合は、積極的に中学校から情報をもろう。入学説明会やオリエンテーションを活用し、保護者面談を実施する。

発達的な課題のある子どもは新しい環境に慣れるまで時間がかかるため、情報をつなぐ必要があります。引き継ぎの時期は年度末や新年度の多忙な時期と重なり事務的になりがちです。情報は人と人がつながることで、有効で生きたものになります。そして、引き継いだ情報に関係者で共有し、チームで対応することが子どものスムーズな移行につながります。